



「急がば回れ」 大学院進学で得るもの

長崎大学長に就任して3カ月経ちました。正直な感想は「学長がこんなに忙しいとは!」という一言に尽きます。出張による移動が増えて、考える時間だけは確保できるため「長崎大学を今後さらに若い世代や社会にとって魅力的なものにするためにはどうしたらいいのか」ばかり考えています。たとえ今魅力的であっても、長崎大学の未来を考えると、若い世代の視点を取り入れることは重要です。

若い間はびんと来ないかもしれませんが、研究を通じた自立は、独自の資質を形成し、自分の世界を広げて個人の魅力となります。そのために大きな課題として取り組み始めたのが、大学院教育の充実と改革です。多様性がキーワードといわれる現代、社会人や留学生と肩を並べながら、答えの見えない問いに取り組む大学院での時間は、やがて飛躍するためのバネのような役割を果たします。少し時間はかかっても、得られる学位は新たな世界へ飛



び出すためのパスポートのようなもの。私自身にとっても大学院で基礎研究を行った日々は、確かなキャリアとしてその後の人生の決断に大きな役割を果たしました。まさに「急がば回れ」なのです。

いくつかの新しい取り組みも動き出しました。熱帯医学・グローバルヘルス研究

科で始まるロンドン大学大学院とのジョイントディグリー制や、東京サテライトキャンパスの誕生です。発表以降、グローバルヘルス領域で研究者になろうという方々の注目を浴びています。地方の大学も強みを生かすことで、キラリと光る存在感を示せることが証明されました。長崎大

学では、このような先行事例をフラッグシップとしながら、しっかりと受け皿づくりに取り組んでまいります。

今の高校生が大学院進学をする頃には、今よりさらに魅力的な大学院となっていることをお約束します。ご期待ください。

みんなで世界を相手にしませんか?

河野 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.62

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌 Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	「急がば回れ」— 大学院進学で得るもの	1
特集	長崎大学で大学院に行くということ	2
TOPICS	新「長崎丸」進水	15
地域で活かされる 長崎大学の「知」	子どもの貧困問題を地域に根ざして考えていきたい	17
研究最前線	オールジャパン体制で臨むFMF研究	19
Information	入学試験情報 クイズ&編集後記	21

表紙のはなし

水産学部の実習船「長崎丸」が新しく造船され、昨年10月に行われた進水式が今号の表紙です。この新しい長崎丸の命名と揮毫は河野茂学長が行いました。(関連記事はP15)